

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	瀬戸市の里山の水生生物を調べよう
(2) プロジェクトの成果 (※どのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>瀬戸市馬ヶ城町の馬ヶ城貯水池とその周辺の水域、および瀬戸市上之山町・屋戸町・吉野町・広久手町において、水生生物をのべ 34 地点で、すなわち湿地の底生動物を 4 地点で、河川と池のエビ類（一部魚類）を 23 地点で、河川のカメドロマシ類を 7 地点で調査した。その結果、4 地点でホトケドジョウ、1 地点でヒトスジキソトビケラ幼虫、4 地点でヒメタイコウチの生息を 2022 年度に引き続き確認した。これら 3 種はいずれも愛知県によって絶滅危惧種に指定されている。また、2022 年度の馬ヶ城貯水池とその周辺の調査では、採集されたエビ類はほとんどすべて外来のカワリヌマエビ属であったが、2023 年度には 4 地点で計 14 個体のスジエビ（在来種）が採集された。外来種に圧迫される恐れがある在来のスジエビと上記 3 種の絶滅危惧種の生息を確認したことは、瀬戸市の里山には貴重な水生生物の生息を支える環境がまだ残っていることを示すものと考えられる。</p> <p>また、馬ヶ城ダム下流において瀬戸市環境課主催で水生生物の観察会を開催し、一般参加者が魚・貝・エビ・水生昆虫の多数の種を採集し、観察した。これによって、参加者は里山の水生生物を実物に触れながら理解することができた。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>水生生物の調査は、2023 年 7 月 25 日（馬ヶ城貯水池周辺 6 地点でエビ類・ヒメドロマシ類、内田・学生 6 人・瀬戸市環境課 1 人）、8 月 29 日（馬ヶ城貯水池周辺 5 地点でエビ類・ヒメドロマシ類・ヒメタイコウチ、内田・学生 4 人）、9 月 15 日（屋戸町屋戸川 5 地点でエビ類・ヒメドロマシ類・ヒメタイコウチ、内田・学生 6 人）、10 月 10 日（広久手町吉田川 2 地点でエビ類・ヒメドロマシ類、内田・学生 6 人）、12 月 26 日（吉野町・広久手町吉田川と上之山町薬師川 7 地点でエビ類、内田と学生 7 人）、12 月 28 日（広久手町吉田川 2 地点でエビ類、内田と学生 5 人）、2024 年 1 月 16 日（上之山町薬師川 2 地点でエビ類、内田と学生 6 人）に実施した。これらの調査で採集された水生生物はプロパノール入りエタノール（商品名：ソルミックス）に浸した後、大学の研究室へ持ち帰って双眼実体顕微鏡を用いて観察し名前を調べ、ねじ口瓶中にエタノールに漬けて保存した。</p> <p>水生生物の観察会は、2023 年 7 月 22 日午前瀬戸市環境課主催により、せと環境塾「馬ヶ城浄水場講座」と題して「川をめぐる連続講座」の 1 つとして開催された。内田と学生 1 人が講師を務め、参加者 9 名（大人 6 名、子ども 3 名）には各人でも網を使っただき、全員が自分で水生生物を採集した。</p>	
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	

馬ヶ城貯水池とその周辺、さらに瀬戸市南東部の里山には絶滅危惧種3種を含む多様な水生生物が生息していることがわかった。今後はさらに広く瀬戸市の河川に生息する水生生物を調べる必要がある。

また、2年度に渡ったこのプロジェクトでは関係者だけで観察会を開催したが、それだけでは瀬戸市の河川・池沼の水生生物を広く市民に知ってもらうことが十分にはできない。瀬戸市環境課との協議では、今までこの地域で観察会などを実施してきた他の団体において指導者の高齢化などによって講師などを務める人材が不足しているとのことである。そのような人材を育成し、環境に関する社会教育・学校教育活動が無理なく持続できるような体制を構築する一助となるような取り組みを今後進めていくことが必要となると考えられる。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。

プロジェクトの実績の写真



2023年7月25日 馬ヶ城ダムの直下流での水生生物調査



2023年7月25日 馬ヶ城貯水池～岩屋堰堤の間で採集されたスジエビ（在来種）



2023年9月15日 屋戸川での水生生物調査後の記録と試料保存



2023年9月15日 屋戸川支流の用水路で採集されたヒメタイコウチ（絶滅危惧種）